

# 女性からのひとこと

国土防災技術株式会社 技術本部試験研究所  
毛利 貴子



東日本大震災から早3年が過ぎましたが、震災の傷跡は今もなお、私たちの心に深く刻まれています。私は福島市にある試験研究所内で被災しましたが、携帯電話の緊急地震速報により、地震が大きくなる前に屋外に避難することができました。私が普段在室している試験研究室では、土質試験で用いる試験器具や薬品等を取り扱っており、日ごろからの防災教育や耐震対策の重要性を再認識することとなりました。

私は宮城県出身で、幼少期から多賀城市で過ごしました。多賀城市も東日本大震災により甚大な被害を受け、子供の頃から慣れ親しんだ景色が津波により一変してしまい、愕然としたのを覚えています。私の住んでいた頃は、過去に起きた宮城県沖地震を教訓とした防災訓練が行われていましたが、津波被害に対する避難経路は確認していなかったと思います。今回の震災を受け、多賀城市では新しい震災復興計画が示されました。私もこの震災以来、今までの常識や慣例にとらわれず防災に取り組む姿勢が大切だと思うようになりました。

大学卒業後、土木関係の仕事をしていましたが、結婚を機に退職し専業主婦を経て今の仕事に就いています。現在、私は試験研究所で土質試験業務を行っています。家庭では今年小学生になる娘のいる母でもあります。就職活動を振り返ると、育児をしながらだと面接を受けることさえ大変だったことを思い出します。面接前には、保育園の一時保育を利用して娘を預けなくてははいけませんでした。しかし、一時保育

を利用する前には馴らし保育を行わなければならない、事前の対応が必要となりました。採用された場合も、娘の保育先として入園可能な保育園を探しておく必要がありました。面接・採用までの道のりは大変でしたが、再就職の難しい中で仕事を決めることができ、また土木関係の業務に従事できることを大変嬉しく思いました。

最初は仕事を覚えるのに精一杯でしたが、慣れてきた頃になると、仕事と家庭の間で悩むようになりました。独身の頃は時間を自由に使って働く事ができましたが、今は家庭を持つ母親として家事と仕事を両立しないといけません。限られた時間の中で、自分がより自信を持って働くためにはどうすればよいかについて悩んだ結果、技術士補の資格取得を目標とすることを決めました。

主婦の私にとって技術士補の試験は、大学を卒業してかなりの時間が経つこともあり、ハードルが高いように感じました。専門科目の他に基礎科目と適正科目があり、特に基礎科目が一番難しかったです。問題集を見ても理解できない問題があり、相当時間をかけないと合格できないと思いました。

試験の内容や配点の合格ラインを把握した後、根気よく問題を解くように努力しました。日々の仕事と家事に追われ、勉強するまとまった時間を作るのが難しかったのですが、その中でどのようにすれば時間を上手く使えるかをよく考えました。朝早く起きて時間を作るようにもしました

.....

が、家事・仕事・勉強すべてをこなすのは本当に難しいと思いました。疲れを感じる時もありましたが、育児や家事を理由に勉強できないのは言い訳にならないと思い頑張りました。家族にとっても、勉強できない理由の対象にされては気持ちの良いものではないと思い、家事・仕事の合間を縫って懸命に試験勉強をしました。

努力の甲斐もあり、無事試験に合格することができました。資格は持つだけでは意味はなく、実務でまだまだ努力しなければいけないと思いますが、第一歩として試験に合格出来たことがなにより嬉しかったです。主婦になってからは、何事も諦めがちな所があったように思いますが、この技術士補合格をきっかけに、まだ新しいことに挑戦が出来るのではないかと思います。このように物事に対して前向きに考えられるようになったのは、私にとって大きな成果の一つだと思います。これからも不安や悩みは尽きないと思いますが、努力が報われることを信じ、自分にできることを進んで考えたいと思います。

試験研究所では私は、日々様々な土質試験料を用いた試験、分析をしています。今まで多くの土を扱ってきましたが、一つとして同じものはなく、同じ作業でも土の質感が全く異なってきます。試験研究所では現場で採取した土を調整し、試験するまでの工程に携われるのでとてもやりがいを感じます。ただし、単調な作業が続く事も多いので、ヒューマンエラーの起きないよう、

作業内容の確認を怠らないよう努めています。これからも、様々な経験を積んで技術・技能を向上させ、この分野だけでなく、広い知識を習得していきたいと思います。

今私が従事している土質試験は、繊細さや粘り強さが求められるため、女性が活躍できる分野の一つではないかと思えます。実際、今の試験研究所にもスタッフとして、多くの女性が家事と仕事を両立して試験技術を磨いている姿をみて、私の励みにもなっています。私が働くようになり、家族の環境は大きく変わったと思えます。特に、三歳になる頃、急に保育園に通うことになった娘には、大変な思いをさせたと感じています。しかし、娘は新しい環境の中で友達を作り、毎日元気に登園してくれました。家族の協力無しでは、今の私は成り立たなかつたと思えます。確かに家庭・仕事の両立は難しい課題だとは思いますが、今後、今まで以上に多くの女性が、この職種に携わるようになることを願っています。最後になりますが、私も土質試験の分野から、震災復興にご尽力されている方や、日々業務で活躍されている方のお役に立てるよう、これからも頑張りたいと思います。